



防犯カメラや冷却ミストも1本の柱に集約できる多機能型街路灯「スマートポール」

信号電材株式会社 SD Lighting 株式会社

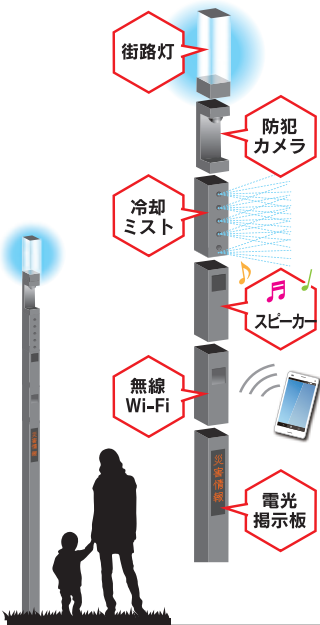
オリンピックを照らせ！ 大牟田発の多機能型街路灯

国内有数の交通信号機メーカー、信号電材株式会社の本社は築港当時としては最先端の技術と資材が投じられた三池港のそばにあります。同社はさらなる飛躍を図る軸として、照明事業に今、力を注いでいます。照明だけに留まらない、防犯や防災にも役立つ多機能型街路灯「スマートポール」、大牟田にちなむ命名がされたLED道路照明「ATUMO」…。「大牟田の宝もの100選」に選ばれた同社の放つ最新の光が日本中、そして、5年後に行われる東京オリンピックの会場をも彩るかもしれません。

同社は社名のとおり、信号機や信号柱などを主力製品とし国内市場では約3割のシェアを占めています。一方日本の社会は成熟期を迎え、道路整備も全国的に行き届きました。今後、信号機に関しては交換やメンテナンスが主になってくると見えています。そのような社会変化を背景に、1972年の設立以来から培ってきた技術や発想力を十分に生かせる照明事業を信号機事業と並ぶ経営の柱に位置付けました。

「スマートポール」新しいインフラのカタチ

来年も販売が始まる「スマートポール」の特徴は外部企業と共同開発したカメラ、スピーカー、通信端末などを自由自在に組み合わせられること。街中、公園、駅、イベント会場と場所によって変化する多彩なニーズに対応できます。例えば、多くの訪問者が見込まれる大牟田市内の世界遺産施設に建てた場合、インターネットに接続できる無線Wi-Fi、夏場に涼をもたらす冷却ミスト、安全を守る防犯カメラ、防災や観光に関する情報を発信できる電光掲示板といった機能を1本の柱に持たせることができます。



いくつかの社会資本（インフラ）をまとめることで、効率的な空間利用や景観保護につながるといった利点も生まれます。信号灯、先端が重くなりながら信号柱、耐久性と耐水性が必要な制御盤などが入った箱を一貫して生産してきたノウハウが可能にしました。

開発のきっかけは2014年1月に開かれた糸永康平社長と若手技術者とが席を交えたミーティングで出た「東京オリンピックに挑戦してみよう」という一言。スタジアムのコンコースや広場と想定される設置場所が多様なことが発想を広げ、構想を煮詰めるのに役立ちました。開発陣のひとり、同社技術部開発課の池末聡さんはオリンピックを「新しいインフラの形を世界中に発信できる舞台」と捉えています。実際、照明器具の展示会への出展など、オリンピック会場への採用も目指し売り込みを強めています。

風景に溶け込む「ATUMO」

大牟田のローマ字表記「OMUTA」を逆にした「ATUMO」にも同社の高い技術が表れています。道路照明として求められる性能基準を満たしながらも、光源モジュールの収まる本体部の厚さは約3cm。幹線道路に設置される高さのポールに取り付けられると、風景に自然と溶け込んでしまいます。薄さを実現した部品のひとつ、光学部品の開発には同社が信号機事業で躍進を果たす契機となった「西日対策交通信号灯器」に関わった技術者の存在がありました。太陽光の反射で信号機の色が見え辛くなるという問題を解決した手腕が注ぎ込まれています。有明海沿岸道路の三池港インターチェンジの入口といった地元はもちろん、兵庫県にある甲子園球場の近くなど、設置場所は広がっています。

2つの製品を含む照明事業を担当しているのは完全子会社の「SD Lighting」。信号電材の糸永康平社長は「SD Lightingには、Social Design（社会をデザインする）の意味合いを含めました。屋外専門の照明会社として社会インフラに寄与する、そんな「あかり」のサポート役でありたいと思っています」と社名の由来を説明してくれました。洗練されたドイツの照明メーカー2社とも提携する同社はこれからもこだわりの光を発し続けます。

（聞き手…江頭裕一）



大牟田にちなんで命名された「ATUMO」

DATA

設立	1972年 代表取締役社長 糸永康平
事業内容	交通信号用各種ポール、大型構造物、交通信号用各種屋外ボックス、ステンレス、スチールおよびアルミ各種加工品、交通信号用車両・歩行者灯器、表示板、屋外照明などの開発、設計、製造、販売
本社	福岡県大牟田市新港町1-29
工場	大牟田市・荒尾市・埼玉県草加市
電話	0944-56-8282 他に北海道、東北、東京、中部、関西、中国、九州地方に営業所